

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和元年6月26日(水) 10:00 ~ 12:00
開催場所	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(委員) 宮本 正路(委員) 鎌倉 義雄(委員) 清水 健司(委員) 向江 奈津子(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 前田 真紀子(事務長) 篠川 一樹(教頭) 林 佳巨(教頭) 吉川 勝敏(首席) 酒井 友行(首席) 石見 友一(首席) 岡本 一恵(首席) 古沢 宏明(指導教諭) 辻 美穂(小学部主事) 増田 健作(中学部主事) 菊池 亮輔(高等部主事) 西井 大介(病弱部主事)
傍聴者	3名(本校保護者)
協議資料	平成31年度 学校経営計画
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介
- (3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出(会長 小田浩伸 副会長 平賀健太郎)
- (4) 本年度の「学校運営協議会実施要項」「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認
- (5) 本年度の予定
 - ① 第1回 「学校経営計画」 めざす学校像、中期的目標、本年度の取組内容
 - ② 第2回 「学校経営計画」 進捗状況 他
 - ③ 第3回 「学校経営計画及び学校評価」 達成状況 他
- (6) 本年度の「学校経営計画」について
- (7) 意見交換
- (8) 校長挨拶

協議内容・承認事項等(校長より内容説明)

《平成31年度 学校経営計画》説明》

*「めざす学校像」実現に向け、校長が「基礎」「実践」「組織」「発信」の観点で「中期的目標」を確認し、「本年度の取組内容」について、具体的に説明を行った。

1. めざす学校像
児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践すると共に、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校
→その実現のために「チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる」を合言葉に、「基礎」「実践」「組織」「発信」の4点を連動させて「好循環な学校」を作る。
2. 中期的目標および本年度の取組内容
 - (1)【基礎】安全安心力の向上
 - ① 人権尊重の教育
 - ・児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。
 - ② 心身の健康を守る教育の推進
 - ・国事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の重点校2年目としての取組について説明。
 - ③ 危機管理体制の強化
 - ・「光陽支援安心メール」をさらに有効活用していく。回答機能訓練を実施していく。
 - (2)【実践】授業実践力の向上
 - ① 教育課程の再編成
 - ・「教育課程」に基づいた「年間計画(シラバス)の見直しとデータベース化を年度内に実行する。
 - ② 質の高い授業実践
 - ・10年経験者研修を活用した「公開授業」を実施する。

- ・病弱部門において、VRやテレビ会議システム活用による原籍校とのつなぎ支援の充実を図る。
- ③自立活動の充実
 - ・「実態把握表」を全児童生徒に100%活用する。
- (3)【組織】組織力の向上
 - ①教職員の専門性向上
 - ・専門的な外部人材(PT・OT・ST等)を年間80時間程度活用する。
 - ②引継システムの推進
 - ・定期的な「断捨離」を行い、「校務のスリム化」と「アーカイブ化」を推進する。
 - ③教職員働き方改革の推進
 - ・学校19時施錠を継続するとともに、仕事のスリム化を具体的に工夫しすすめる。
 - ・専門機関と連携し、腰痛予防研修を毎月1回実施する。
- (4)【発信】発信力の向上
 - ①交流および共同学習の充実
 - ・「学校間交流」「居住地校交流」の実践を充実する。本校児童生徒や支援教育への理解を深めるため、事前に「出前授業」に出向き、通信(スカイプ)交流を実施してから、本交流する流れで行う。
 - ②地域に開かれた学校作り
 - ・就学前の「遊びの会」開催場所として、休日に学校を開放する。
 - ・地域の方に参加していただき、ポッチャの大会を実施する。
 - ③実践の積極的発信
 - ・全国肢体不自由研究会にて、交流の発表を行う。

協議内容・承認事項等(委員からの意見の概要)

《委員より》

- ・地域で防災の取り組みをすすめていくにあたって、どのような災害を想定するのが重要である。「地震」「水害」「火山」「津波」等、地域の実態を知った上での対策が大切である。地震に対しては以前から取り組んでいるが、水害に対しては、淀川の堤防が決壊したらどのくらいの水がくるのか、把握しておく必要がある。新森地区の中でも、海拔に1.5mから3mの差がある。水害の可能性も把握して準備してほしい。
- ・学校間交流の全国発表に期待している。
- ・今後、交流をすすめていく中で、何か課題がでてきたら一緒に考えていきたい。2学期以降も交流を通して、共に学び共に育つことをめざしたい。
- ・小学校でも経験の浅い教員が多くなってきている。ベテラン教員のスキルをどう伝えていくか、具体的な研修の場を増やす必要を感じている。若手教員の良さとベテラン教員の良さを融合できるようにと考えている。
- ・光陽支援学校の特徴として、肢体不自由部門と病弱部門の二つの部門があることをもっとメリットとしてアピールしたらよいと思う。互いの授業を見学しあうなど、二つの部門があることを生かす仕組みが作れないだろうか。
- ・「断捨離」という言葉は、商標登録されている言葉ではないだろうか。スリム化を進めるためには、ハード面・ソフト面で余裕をもっておくことも大切ではないか。
 - 「断捨離」という表現については、不都合があれば、「整理整頓」に変える。スリム化については、教員の膨大な業務を整理して、授業準備や子どもたちのことが話し合える時間として有効に使えるようにしたいと考えている。外部機関や福祉資源との役割分担も考えていく。
- ・保護者の立場として、安心安全に通わせることができることが一番である。目標を高くもち、地道に取り組んでいただきたい。
- ・支援教育の授業に関しては、20年前から大きく変わっていないように思う。授業力の向上・実践力の向上をぜひ進めていただきたい。また、障がいの重い子どもたちのアクティブラーニングについて研究し、他校へ発信できるようにしてほしい。
- ・支援学級で自立活動が必須になったことで、今後、支援学校の自立活動が知りたいという要望が出てくるのではないかと。その点でもセンター的機能を発揮していただきたい。

次回の会議日程

日時	令和元年12月13日(金) 10:00 ~ 12:00
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室